

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集／東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料
送料 1部1カ年1,300円
(1,182円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

東本願寺公式YouTubeにて
さまざまな行事の様子を
公開しています。



東本願寺NEWS

検索

同朋新聞

Dōbō Shimbun

6

Vol. 811
June 2025

令和6年能登半島地震ボランティア活動

今月の写真



ボールを蹴れるのは当たり前じゃない。
忘れていた大事なことを教えられました。

5月5日、真宗大谷派学校連合会加盟校の大谷高等学校(京都)サッカー部が、石川県輪島市門前町においてボランティア活動を行いました。石川県は高校サッカーの遠征場所として有名な地で、同部も思い入れが深い場所です。今回の能登半島地震の被害状況を知り、何か恩返しができないかと考え、昨年の夏からボランティア活動を継続しています。

今月の法話 如是我聞

聞法の相続

北海道教区第17組 幸福寺

楠 信生(75)

あるご門徒の女性の言葉です。「私の実家の祖母は字が読めませんでした。それでも孫の私たちと一緒にする朝夕のお内仏でのお勤めの時、字が読めないのに、必ずお勤めの本を開くのです。驚いたことに、お勤めしている箇所を正確に開いていました」と。

この話を聞かせてくださった方も亡くなられましたが、よく聴聞された方でした。その方のおばあさんはわが身を法の鏡の前に、聴聞しておられたに違いありません。帰命の生活者であったことが、その女性の聞法の姿勢からうかがうことができました。相続ということについて、安田理深先生が教えてください。

仏法の歴史にたすけられて、たすける仏法の歴史をつくる。これが相続である。南無阿弥陀仏の歴史というものが歴史を超えた世界を荘厳している。それが浄土である。

(安田理深『願生浄土』永田文昌堂発行)

「たすけられる」ということは、自身を懺悔し仏法を敬うところを育てられるということです。相続ということが経済観念のみで考えられる風潮の中で、聞法つまり念仏の相続が大切な道であることを明らかにしなければならぬ時であると思います。

真宗本廟

開門・閉門時間
5:50~17:30

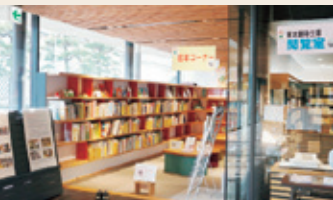


Pick up

一般参拝案内【無料】 毎日2回(9:30・15:30)
職員が御影堂と阿弥陀堂をご案内します。
※都合により、休止日もあります。

しんらん交流館

開館時間
9:00~17:00
休館日
毎週火曜日



Pick up

絵本コーナー
畳敷きのコーナーでゆっくりと絵本に親しむことができます。 ※貸出可能(16:30まで)

しょうせいえん 渉成園

開園時間
9:00~17:00
(受付は16:30まで)



庭園維持寄付金
大人 700円以上
中高生 300円以上
小学生以下 無料

今月の見どころ

クチナシが花をつける時期になります。園内の随所に植えられており、香りもお楽しみいただけます。

information
インフォ
真宗大谷派
ホームページ



令和6年能登半島地震で被害に遭われました被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます

この紙面では、さまざまな人をおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。



孤独とつながり〈後編〉

日本社会は、地縁や血縁で強くつながれていたムラ社会から、個人を尊重する社会へと変化してきました。しかし、その中で、孤独感に悩む人が増え、孤独に対する不安や恐れが増幅しているのではないのでしょうか。先月に引き続き、社会学の立場から孤独や孤立について研究をされている石田光規さんのお話から人間の相を考えます。



1973年、神奈川県生まれ。早稲田大学文学学術院教授。東京都立大学大学院社会科学部社会学専攻博士課程単位取得退学。博士(社会学)。著書に、『「人それぞれ」がさみしい——「やさしく・冷たい」人間関係を考える』(ちくまプリマー新書)などがある。

インタビュー
石田光規さん

高齢者はなぜ孤立しやすいのか？

——現代は、お年寄りの孤独死など、高齢者の孤独・孤立が問題となつていますが、それはどういったことに起因しているのでしょうか。

まず、高齢者の場合、自分から強く意識しないとながりができないということがあります。ですから、孤独・孤立に陥りやすいという認識をあらかじめ持つておくことが大事です。特に配偶者が亡くなつて、一気に孤独・孤立状態になるケースが非常に多いです。

前もつて趣味の会など何らかのつながりの中に入っていればいいですが、なかなかそういった備えをする人は多くありません。あらかじめつながりがあれば、何かがあった時つながりの中で悩みや不安を解決していることもある。しかし、人とのつながりつて簡単にできるものではないです。まして日本社会はマイナスなこ

を言えない、といった傾向があるのかなと思います。

そういう意味では、お寺の立ち位置というのは、見直すことができるのかなと思うですね。お寺つて、通常の関係とは一歩離れた立ち位置だと思いますのでそういった場だからこそ言える、そういった場だからこそ聞くことができない、こ

——そうですね。お寺は日常のつながりではないつながりができる立ち位置にあると思いますので、普段言わないことを言える環境はあるのかもしれない。しかし、困つていても、なかなかSOSを出せない人もいますよね。

そうですね、多くの人はそういう理由で我慢をしてしまいます。政府や行政もいろんなシステムやサポート制度を整えていて、「本当につらいから助けてほしい」という人には支援の手だてはあるんですね。

ただ、そういう悩みごとを言わずに、内にとどめてしまふ人もいる。つらいと

言つたら迷惑なんじゃないかと、言うのが恥ずかしいとか、あるいはもうそういう支援に期待できないくらいに疲れてしまつている人もいるかもしれません。そんな中で、声を上げられない人をどのようにキヤッチしていくのかということが、孤独・孤立対策の一番大きな課題ではないでしょうか。

——昔は近所に世話好きの人がいました。が、そういう人はどんどん減つていまして、どうしても重大な状況になるまで対応できないのが現実かもしれません。

できれば深刻な状態になる前に何とかしたいのですが、その前段階で気づくことはなかなか難しい。

孤独・孤立の一番難しい問題は、「二人でいることの何が悪いんだ」とか、「二人で生活しても別にいいじゃないか」つて言われてしまふことなんですね。

なぜ孤独・孤立が問題なのかというと、孤独・孤立になった結果、精神的に病んでしまつたり、孤立死や自殺といった悲

劇的な事態に陥りやすいからです。調査の結果を見ても、孤独・孤立がマイナスの結果を招きやすいということははっきりしています。

しかしそこで難しいのは、問題になりそうな孤独・孤立と、問題なさそうな孤独・孤立を事前にわけることができないことです。「大丈夫だ」と言っている人を見て、「あなた、大丈夫と言っているけど、だめそうなので介入します」、あるいは「あなたは本当に大丈夫だから何もしません」と勝手に判断してしまふと、それだけで人権侵害になってしまふ可能性もあります。ですから結果として、「大丈夫」と言われてしまふと、信じるしかない、そんな状況です。

——人に迷惑をかけられない、人に頼るのはよくないといった考えは、日本人に多いのでしょうか。

明らかに日本人には多いですね。例えば日本の生活保護制度の場合、「みんながお金を出して、面倒を見てあげている制度」といった意識があつて、生活保護を

「場の力」をもう一度見直して

——そういう中で、あらためて人と人とがつながっていくのは難しいのでしょうか。

やはりこれからもつながりがますます減つていく可能性は無視できないと思います。

例えば、エスカレーターと階段があると、健常者であつてもエスカレーターを使つてしまふ人は多いですね。でもそうしてエスカレーターを使つてみると、筋肉はどんどん衰え、ますます階段を使いたくなくなつてしまひます。そして、やがては完全に筋肉が衰えて、外に出ることも大変になつてしまふかもしれない。

つながりについても、それと同じことが言えます。今の社会は、もうすでに一人で過ごしやすい社会なんですよ。一人でできる娯楽もたくさんあつて、さまざまなことを一人でできてしまひます。その一方で、つながるといふことは、楽しさもある半面、面倒くささや、煩わしさもあるかもしれない。そうなつた時に、わざわざ人とつながろうと思う人がどれぐらいいる

世帯も増えて個人社会になり、関係が個々に分断されているはずなのに、迷惑をかけてはいけない、というムラ社会のルールが残つてしまつている。そうすると、迷惑をかけてはいけない範囲が、より広く、この社会全体になつてしまふわけです。その結果、一人ひとりが相手の見えな社会の中で迷惑をけないようにと過ごしているというのが現状ではないでしょうか。

のかというと、「ちょっとぐらい寂しくても、煩わしいつながりを持つぐらいなら独りでもいいよ」という人は少なくないでしょう。

でも、そうして独りでいると、つながるための筋力ほとんど落ちてしまつてしまふんです。一度独りになつてしまふと、ものすごい力を入れないと、人とながることが難しくなつてしまふ。そして、難しいから、さらに独りであるようになつて、結果として、つながりの中に戻つてこれなくなつてしまふ。

そうなるつてくると、つながるための筋力、体力を鍛錬できる社会ではなくなつてしまつているから、どんどん孤立が深まつてしまふということが一番起こりうる未来なんですね。

——隣近所との付き合いも希薄になる中で、難しい状況ですね。

そうですね。その中でも、地域のつながりは最後の砦だといわれています。結局のところ、つながりといふものを意識した場合、距離が近いことつて結構

さまざまなにつながれる「場」

——地域のつながりは風前のともしびではありませんが、考え方が一緒の人だけではなく、趣味や年代も全然違う人とそこに集まり、顔を合せて話をすることが大事なんではないでしょうか。

地域のつながり自体が本当に財産だと思ふんですね。実際のところ、都市部ではもつぱら失われてしまつていると思います。そしてそれは一度失われてしまふと、戻すのはなかなか難しい。お祭りでもなんでも、まだそのかたちが残つていれば、それを存続させたり、あるいはかたちを変えて時代にふさわしい場にしてい

——そうですね。意味では、お寺という場所も、法要があつて、みんなでお参りをして、お話を聞く。そして、お茶を飲みながら話をする。普段顔を合せている人とも落ち着いて話ができる。そのことの有用性をあらためて感じます。

そうですね。ですから、法事などで集まることは、大事なことだと思つています。親戚にもいろんな背景の人がいますから。普段会わないような人たちともあらためて話を聞くこともできますし、そういう機会は大切にしたい方がいいと思います。

また、先祖から自分に引き継がれているものを意識し、自分のアイデンティティーをつくる上でもこういった機会は大切だと思います。個人で生きていくと



いつても、一人で立派な業績を出した人はそれでもいいのかもしれないですけど、そうではない人は自信のもてない根無し草みたいになつてしまひます。ですから、先祖から私にいのちがつながっているという考え方そのものも大事なんじゃないのかなと私は思いますね。

——そうですね。「今だけ、自分だけ」で生きているわけではなく、本当は人とつながりながら、過去から未来にかけて生きているのに、現在はそこをぶつ

(了)

生きるを現在

特別編

帰敬式と私



児玉さん(左) 安田さん(右)

帰敬式は「おかみそり」ともいわれ、仏法僧の三宝に帰依し、お念仏の教えに自らの人生を問いたずね、真宗門徒として新たに歩み出すことを誓う大切な儀式です。

日本全国のご門徒の方々を紹介する本コーナー。今回は「特別編」として、真宗本願奉仕で上山され、帰敬式を受式された北海道教区の児玉さん、安田さんにお話を聞きました。

北海道教区 第13組
勝誓寺門徒こだま まゆこ
児玉 麻友子さん
(60歳)やすだ かよ
安田 佳代さん
(60歳)

【法名】

しゃくに きようう
釋尼 慶友しゃくに かきよう
釋尼 佳景

「お二人は同級生だとお聞きしました。」

中学まで同じ学校に通っていました。今は、勝誓寺の門徒として、法話を聞いたり、草取りやおみぎきなど、お寺の婦人部と一緒に活動しています。今回は、住職からのお声がけがきっかけで第13組主催の真宗入門講座を受講し、帰敬式を受式しました。

「受式された感想をお聞かせください。」

安田さん 帰敬式を受け、法名をいただきましたが、自覚がなくて。仏弟子って何？ わからないことはあります……

児玉さん 私もそうです。でも、わからないなりに帰敬式という場に立たせてもらい、その形を受け取ったと感じています。これから、その意味

をたずねていけたらと思っています。一年生になった気分です。

「本山(同朋会館)での生活はいかがでしたか。」

児玉さん 身を運び、自分で見てふれることをとおして、今まで漠然としていた親鸞聖人や本山が身近な存在になりました。両堂参拝が一番印象に残っています。お念仏の教えにふれ、その大切さを感じたたくさんの方の思いが、建物や歴史という形となって私のところに届いている。この感動はずっと残っていくと思います。

安田さん 地元で研修してきた仲間と寝食をともにするという、めったにない経験ができてとても楽しかったです。講義では、人間は、他者となつがらいい、すべてのものに支えられて存在しているというお話があ

りました。

同朋会館では多くの方と生活するので、いつも誰かがそばにいて、さまざまな場面で相手への思いやりが必要です。いろんな方のあたたかい気持ちにふれ、生活をおしてお話の内容を味わうことができました。

児玉さん 自分中心でしか生きられない私であることを、たくさんの人との関わりの中で気づかされ、仲間とそのことを確かめ合う。その輪が地域、社会、世界に広がっていくといいなと思いました。

安田さん お寺は年をとってから行くところだと言われますが、教えを聞くのに年齢は関係ないと思いました。若い人にぜひ教えにふれてほしい。子育てや仕事で大変だと思いますが、大変だからこそ聞いてほしいと思います。

研修部

通信員リレーレポート



お寺の掲示板

第22回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



えんじょうじ
圓成寺(富山教区 第2組)
富山県砺波市表町13番2号
住職 堀 勉

人生一生
酒一升
あるかと
思えば
もう空か

お寺の掲示板に書かれた言葉がふと目に入り、足を止めることがあると思います。そんな時少し肩の力が抜けるような言葉を届けたいと思います。この法語を選びました。楽しい時も苦しい時も、人生はあつという間に過ぎていく。その中で、本当に大切なものは何か——。一人でも多くの人の心に届くよう、やさしい言葉を選んでいきます。

町の中心に佇む圓成寺は、地域の人々と深くつながるお寺である。地域を挙げての一大行事であるとなみ夜高まつりの拠点の一つとして約3カ月の間、祭りの準備に多くの人が集う場所にもなっている。

そんな圓成寺は2021年、お寺の修復をきっかけに掲示板を設置した。掲示板は境内の2カ所に設けられ、それぞれ異なる言葉を掲示している。そのうち一つの掲示板は、市のこども園に隣接しているため、普段あまりお寺に縁のない人の目にも留まるような言葉を選んでいくという。

「言葉を人に伝えるのはとても難しい。でも、書き続けることで届けられる言葉もあるかもしれません」そう話してくれたのは、掲示板が設置されて以来、法語を書き続けている若坊守さんだ。

言葉は、すぐに人の心に届くものではない。まして心の深くに響く一語との出会いは、きわめて稀ではないだろうか。だからこそ、書き続けることに意味がある。いつか誰かの心にそつと届く、その瞬間のために。これからも、地域と仏法とを結ぶ場として、あたたかな縁を育むお寺であり続けてほしいと願っている。

富山教区通信員
山田 晋太郎

仏教ゆかりの植物図鑑

松下 俊英(著)
大島 加奈子(絵)
B5変形判/80頁
定価:1,210円(税込)



イラストで見やすく
東本願寺を図解!

イラストで知ろう! 東本願寺

かたおか 朋子(イラスト)
A5判/112頁
定価:660円(税込)

日々の食事、お斎にも最適!

精進ごはん

森 かおる(著)
B5変形判/120頁
定価:1,430円(税込)



ご好評につき重版いたしました!

東本願寺出版の
書籍は書店でも
お取り寄せて下さ

東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日: 日曜日

親鸞聖人^{りゅうじゆ てんじん}がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧^{しちこうそう}」と呼ばれるインドの龍樹^{りゆうじゆ}・天親^{てんしん}、中国の曇鸞^{どんらん}・道綽^{どうしやく}・善導^{ぜんどう}、日本の源信^{げんしん}・源空^{げんくう}（法然^{ほつねん}）。そして「和国の教主^{わこく きようしゆ}」と仰がれた聖徳太子^{せいとく}です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号からは善導について、3回にわたってたずねてまいります。



ひかりを 伝えるひと

七高僧と聖徳太子

第18回

善導大師^{ぜんどう だいし}

釈迦^{しやか}は要門^{ようもん}

定散諸機^{じやうさん しよき}を

ひらきつつ

正雑^{しやうさく}二行^{にぎやう}方便^{ほうべん}し

ひとえに専修^{せんじゆ}を

すすめしむ

〔高僧和讃^{こうそう わさん}〕

『真宗聖典 第二版』五九八頁

〔現代語訳〕

釈尊は、要門の教えを説きひらいていく中で

さまざまな能力の人びとに対して、定善や散善といったそれぞれに相応

しい多くの実践方法を示しつつ

正行と雑行との二つの行で衆生を

仏道に誘い入れ

専ら念仏を称えることを勧めるようにと、善導大師に促された。

華開く仏教

善導大師（六三一―六八二）は、中国の隋から唐の時代に活躍しました。若い頃の事跡はあまり審らかではありません。出家後は、あちこちを巡っていたようです。

善導大師が生まれた時には、中国の南北の王朝がおよそ三百年ぶりに統一され、隋という王朝が成立していました。仏教もまた朝廷の保護を受けて大きく発展します。中国の仏教は、世界各地でさまざまな展開した仏教がバラバラに流入していました。隋代以降、それらの仏教を体系的に把握しようという動きが活発になりました。三論宗や天台宗といった学派が成立したのも隋代です。この風潮は、善導大師が活躍した唐代にも引き継がれ、中国では多様な仏教思想が生まれました。そのような、仏教が百花繚乱となつている中で、善導大師は、本当に依ることができ、師を求めているのです。

道綽禪師との出遇

そのようにさまざまな仏教がもてはやされている中で、善導大師は、三十三歳の年に道綽禪師に師事します。道綽禪師が当時住していたのは、人里離れた山奥にある玄中寺でした。善導大師がいかに真剣に師を求めてアンテナを張り、果敢な行動力を持っていたかが窺われます。

善導大師は、道綽禪師こそが真の師であると確信したのでしょう。そのまま道綽禪師が亡くなるまで玄中寺で浄土の教えを受けました。

その後、善導大師は長安の都に出て活動を始めます。玄奘三蔵がインドから戻ってきて大規模な仏典翻訳を始めた頃でもありました。長安では、玄奘三蔵による翻訳がおこなわれていた慈恩寺にも住していたと伝えられています。おそらくは最新の仏教研究を吸収しようとしていたのでしょう。

そのように自ら貪欲に修学する一方、人びとへの浄土教教化にも努めました。『仏説阿弥陀經』を大量に書写して配ったり、浄土の様子を描いた図を二百枚余りも描いたりしました。また、『仏説觀無量壽經』の注釈などを著しました。

釈尊の本意

世の中にはさまざまな性質を持った人がいるので、釈尊はそれぞれの人に合わせてさまざまな実践を説きました。

善導大師は、そのような多様な実践には、仏道に誘い入れるためにさまざまなものが混じっている（雑行）ことを明らかにしました。そして、念仏こそが、釈尊の本意にかなう「正行」であると示したのです。

善導大師は、道綽禪師から伝えられた浄土の教えこそ真実のひかりを伝えるものであるとの確信をますます強くしていったに違いありません。



わけみ あきら
采翠 晃

大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職



非核非戦の願いを伝える 「嘉代子桜・被爆クスノキ2世」を植樹

真宗本廟「春の法要」期間中の4月2日、真宗本廟において、九州教区「原爆80年 非核非戦」事業の取り組みとして、阿弥陀堂南側に「嘉代子桜」が、お東さん広場に「被爆クスノキ2世」の苗木が植樹された。

「嘉代子桜」は、爆心地から約500mの所にあった兵器工場の事務所として使われていた長崎市立城山小学校(旧城山国民学校)で亡くなった林嘉代子さんと女学生たちを憶い、嘉代子さんの母親が、娘の好きだったソメイヨシノの苗木を城山小学校へ送り植樹したことから始まり、長崎において平和のシンボルとなっている。

また、「被爆クスノキ2世」は、爆心地から約800mに位置する山王神社の境内にある被爆クスノキの種を採取し育てられたものである。原爆によって枯れ木同然の姿になるも、樹勢を取り戻し、人々に生きる勇気と希望を与えたことから、その苗は世界中に植えられている。

2025年は原爆投下から80年という節目の年にあたり、被爆された方々が高齢化し、語り継ぐ方が少なくなってきた今、被爆樹木の“声なき声”を聞き、原爆の悲惨さを未来永劫にわたり語り継いでいくことを願いとして、春の法要の全戦没者追弔法会に合わせ植樹が実施された。



国指定重要文化財「手水屋形」 修理工事完了式を執行

2024年7月から開始された真宗本廟境内の手水屋形の修理工事が完了し、3月27日に「手水屋形修理工事完了式」が執り行われた。

現存する手水屋形は、御影堂と同じ伊藤平左衛門が棟梁となり1895(明治28)年に再建されている。このたびの修理工事は、明治再建後、初めての大規模な修理で瓦の葺き替えに、鋳金具の補修工事、耐震補強工事が行われた。

完了式では、大谷暢裕門首、木越渉宗務総長をはじめとした宗派関係者や修理工事を担当した施工者、修理にあたりご寄付いただいた方など、約40人が出席した。

長峯顕教財務長の調声による勤行の後、宗務総長と、来賓を代表して株式会社寺本甚兵衛製瓦代表取締役より挨拶があった。その後、京都府から阿弥陀堂門・鐘楼・手水屋形3棟の修理報告をいただき、最後に修理期間中停止していた水を龍の口から通水して式典は終了となった。

2021年から約4年間にわたり、国庫補助を得て行われた国指定重要文化財3棟(阿弥陀堂門・鐘楼・手水屋形)の修理事業は、これをもって無事完了した。

お東さん ガイド

お知らせ

東本願寺・渉成園を 会場に展示会開催

京都府では、大阪万博の期間中に京都の文化の魅力にふれてもらおうと、京都駅周辺エリアにて「京都駅周辺まるごとゲートウェイ事業」を開催しています。その取り組みの一環として、東本願寺の境内や飛び地境内地の渉成園において「いけばな」、「日本画」、「写真」、「工芸美術」などの文化芸術作品の展示を行います。ご参拝の折には、ぜひお立ち寄りください。

GATEWAY
KYOTO

詳しくは
こちら



第53回能登教区同朋大会 令和6年能登半島地震・ 奥能登豪雨物故者追弔法会

2024年1月に発生した「令和6年能登半島地震」、ならびに9月に発生した「令和6年奥能登豪雨」。第53回能登教区同朋大会は、この度重なる災害によって被った厳しい現実を心に刻み、犠牲となられたすべてのいのちに思いを馳せて、ご遺族・被災者の悲しみの心に寄り添いながら、物故者追弔法会として開催します。どなたでもご自由にお参りいただけます。皆さまのお参りを心よりお待ちしております。



日時	2025年6月21日(土)13時から	
会場	能登教務所 (さいひょうじや) 本堂	
日程	13時	開会
	13時30分	勤行
	14時30分	感話
	15時	法話
	16時	閉会

大谷暢裕門首
出仕

木越渉
宗務総長

読者のお便り 息子と聖徳太子像の 御開帳へ

茨城県水戸市
こぼりあゆみ
小堀 亜由美(38歳)

2月に、小学3年生の息子と、水戸市の善重寺にお伺いしました。お目当ては聖徳太子像の御開帳です。

実は、前日にあった授業参観で、善重寺について発表した息子。発表の準備のため、昨年の夏に初めて善重寺を訪れ、その時に年に一度の御開帳のことを知りました。息子は、聖徳太子像については

ネットで調べたことをもとに発表したのですが、「本物を見たい」ということで今回再び足を運んだのです。

たくさんの人が見に来ていて、順番に並んで見ました。展示品や説明を見て、息子は「調べたやつだ!」と楽しそうに写真撮っていました。また、ネットではよくわからなかったけれど、実際に見て理解でき

たこともあったようです。

私も、息子のおかげで初めて知ることがたくさんありました。『同朋新聞』も御開帳に並んでいる時に配られて初めて読み、興味深い記事に感銘を受けました。この機会にととても感謝しています。

お便り募集 『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihonganji.or.jp FAX/075-371-9211
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版『同朋新聞編集係』

◆住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。
紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

救援金を勧募しています

宗派では、「令和6年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。皆さまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金
口座

郵便振替口座番号 00920-3-203053

加入者名 真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

救援金
総額

247,221,346円
(2025年5月7日現在)

-6/1~6/30- カプセルトイ キャンペーン



嘉代子牡丹園



御影堂



桜花園

東本願寺お買い物広場にカプセルトイが設置されたことを記念して、東本願寺出版ホームページにて3,000円以上ご購入の方から抽選で15名様に**大人気アクリルスタンド**をプレゼントします。(全5種のうち1つ)

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※消費税・送料を除く3,000円以上

仏教がみちびく、
あらたな人生



特集
生き抜くための
手芸

月刊『同朋』6月号

A4判・オールカラー 60頁
定価:400円(税込・送料別)
年間購読:4,200円(税込・送料込)

真宗聖典

第二版



好評発売中
大判 定価 4,950円(税込)
小判 定価 4,400円(税込)

ご注文・お問い合わせは

東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

☎075-371-9189 ☎075-371-9211

詳しい書籍情報は 東本願寺出版 検索



御本尊は本山からお受けしましょう

● ご案内

真宗本廟

開門・閉門時間／3月～10月:5時50分～17時30分
11月～2月:6時20分～16時30分

晨朝(おあさじ)

【場所】阿弥陀堂及び御影堂
【時間】毎日7時～

晨朝法話

【場所】御影堂
【時間】毎日7時30分頃～

真宗本廟法話

【場所】視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間
【時間】通常 10時10分～／13時10分～
速夜日(12・27日) 13時10分～
御命日(28日) 9時30分～
※その他、時間・会場を変更する場合があります。

参拝接待所ギャラリー

【時間】9時～16時
「非戦と平等の源流をたずねて」(開催中～6月26日)
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)

詳しくは → 東本願寺 検索

しんらん交流館

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひお立ち寄りください。
開館時間／9時～17時
休館日／毎週火曜日

6月の定例法話

【時間】毎日14時～(12日・27日は10時～)
※休館日は休会。その他、都合により休会する場合があります。

6月の東本願寺日曜講演

【時間】9時30分～11時
【講師】6月22日 武井 弥弘氏
(九州大谷短期大学副学長・京都教区明覚寺住職)
※6月1・8・15・29日は休会。

詳しくは → 浄土真宗ドットインフォ 検索

2025年 真宗本廟奉仕に参加してみませんか

—— 真宗本廟奉仕を機にぜひ帰敬式を受式ください ——

真宗本廟中学生・高校生奉仕団

8月7日(木)～9日(土)

【講師】金石 潤導氏
(北海道教区開正寺住職)
【定員】30人
【対象】中学1年生から高校3年生まで
【参加費】中学生9,000円／高校生13,500円、米2kg(1升4合)または米代1,300円

真宗本廟おみがき奉仕団

2泊 11月9日(日)～11日(火)
1泊 11月9日(日)～10日(月)

真宗本廟報恩講を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。
【参加費】
(2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
(1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

※申込締切は各入館日の40日前です。

お申し込み・お問い合わせ 同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

入館中はお仲間や他団体の方々とカフェ(無料)でほっこり♪

今月号の『同朋新聞』を読んで、
クロスワードパズルを完成させよう!

プレゼント付

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう! 6月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

タテのカギ

1 「ひかりを伝えたい」と、本号は、『真宗聖典 第二版』598頁の『〇〇〇〇和讃』から引用しています。(5面)
2 「人間といういのちの相」今月のタイトルは「孤独と〇〇〇〇(後編)」です。(2・3面)
4 「縁—お寺の〇〇〇板—」今月の言葉は「人生—生酒—あるかと思えばもう空か」です。(4面)
5 非核非戦の願いを伝える「嘉代子桜・被〇〇〇〇〇〇キ2世」が植樹されました。(6面)
6 「〇〇〇ん交流館」絵本コーナーでは、豊敷きのコーナーでゆっくりと絵本に親しむことができます。(1面)
7 真宗本廟お〇〇〇奉仕団は、真宗本廟報恩講を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のお〇〇〇を日程の中心とした奉仕団です。(7面)

ヨコのカギ

1 『教行信証』は宗祖親鸞聖人の主著であり、浄土真宗の〇〇〇〇聖典です。(8面)
3 『精進ごはん お〇〇のできるレシピ108』は、日々の食事、お斎にも最適です。(4面)
4 「京都駅周辺まるごとゲートウェイ事業」の一環として、東本願寺の境内や飛び地境内地の渉成園において「い〇〇〇」、「日本画」、「写真」、「工芸美術」などの文化芸術作品の展示を行います。(6面)
8 親鸞聖人は、法然上人を「〇〇ひと」と仰ぎ、生涯その教えを憶念し続けた人です。(8面)
9 月刊『同朋』6月号の特集は、「生き抜いた〇〇〇ゆ芸」です。(6面)

読者のこえ

3月号を読んで

◆「表紙」荘川桜が根付いている姿はなんともいえない生命の尊さを感じました。(富山県80代)

◆「人間といういのちの相」「おひとりさまと介護」を読み、高齢の親や自分の先行きのことを考えずにはいられませんでした。「認知症が怖い」と恐れる前に認知症のことを知る努力をしようと思いました。(茨城県50代)

正解者の中から抽選で3名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」、2名様に月刊『同朋』をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、右記までご応募ください。今月号の締め切りは7月10日(木)(当日消印有効)です。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版 「クロスワードパズル係」まで

メールでも応募できます! はがきと同様に必ず左記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞6月号クロスワード応募」と入力の上higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。

応募はコチラ

〈ご注意〉 ◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報プレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

◆4月に宗務役員となつてすぐ、春の法要が勤まり、私は撮影のため御影堂に足を運びました。子どもの頃にお参りしたことはありましたが、大人になり、あらためて見てみるとその荘厳さや、参拝の方々の真剣なまなざし、熱心に「南無阿弥陀仏」と称えながら手を合わせている姿に、深い感動を覚えました。

◆このたび『同朋新聞』の編集に携わせていただくことになりました。住職である祖父は足が悪いため、その手伝いでご門徒の方々に本紙をお配りした経験があります。当時はどんな新聞であるか知らなかった私が、その作り手になるということに、大きなご縁を感じています。

『同朋新聞』の歴史や、毎日寄せられる感想などから、多くの人に愛されてきた、本当に大切な機関紙であると知り、身の引き締まる思いです。読者の皆さまにとって読みやすくわかりやすい紙面となるように、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。(高坂)

真鍮製仏具向け洗剤 《みぞきれい ピカっと》

目詰まりキレイに! 泡沫で溝や彫刻細部の汚れ除去!

洗剤の改良により、より強い効果が発揮できるようになりました。特に石灰化した研磨剤の目詰まりには強い威力を発揮します。是非、報恩講等ご法要の前のお磨きにご利用ください。

50ml入(スプレー).....1,760円
200ml入(スプレー).....5,830円
詰め替え用2000ml入.....41,800円

※価格は税込です。

創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具

株式会社 若林佛具製作所

文化財修理 社寺内装・外装工事

株式会社 若林工芸舎

京都本店 〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入 築地店 / 札幌店 / 仙台営業所 / 福岡営業所

若林仏具製作所オンラインショップ https://www.wakabayashi-jiin.com/

荘厳仏具から内装・納骨壇まで、全国・宗派対応いたします。お買い物にお得なクーポン配布中!

合掌の心と共に196年 お仏壇・仏具はやっぱり京都!

◆お仏壇・仏具の事なら何でもお気軽にご相談ください。

☎ 0120-37-8585

●ホームページもぜひご覧ください https://www.wakabayashi.co.jp/

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

坂東本とは



真宗大谷派(東本願寺)に蔵される『顯淨土眞實教行證文類』(『教行信証』)「坂東本」は、現存する唯一の宗祖親鸞聖人自筆の『教行信証』であり、1952(昭和27)年に国宝に指定されています。「坂東本」の通称は、宗祖の高弟・性信によって「坂東報恩寺」(現:東京都台東区)に長く伝持されてきたことに由来するものです。

本文の大部分は、宗祖60歳頃の筆で記されており、さらにそれ以降、最晩年にまで加筆や修正の跡が見られ、『教行信証』を執筆する宗祖の息づかいを感じさせてくれます。

◆「坂東本」の詳細・特徴は、動画「立教開宗の書 教行信証《坂東本》の世界」や『はじめてふれる坂東本・教行信証』(東本願寺出版・1,650円(税込))をご覧ください。



カラー影印縮刷本について

- ①影印本とは複製本のことです。この本は、「坂東本」の本文全頁の写真をカラーで掲載し、「坂東本」の頁割と同様に画像を配置しました。
- ②「坂東本」の約90%の縮尺で写真を掲載しています。
- ③翻刻文と合わせて活用いただけるよう、『顯淨土眞實教行證文類<翻刻篇>』の頁数を併記しています。

掲載内容(四分冊) >

※各頁数は予定

聖教編集室 編 >

- 一 「教巻・行巻」を収載 160頁
- 二 「信巻」を収載 192頁
- 三 「証巻・眞仏土巻」を収載 144頁
- 四 「化身土本巻・化身土末巻」を収載 232頁

A4変形判(縦30.5cm×横23cm)
オールカラー・箱付き

もあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

親鸞聖人が亡くなられて七百六十余年を経た今日、私たちが『教行信証』に触れることができるのは、聖人の願いと、この書を護り伝えてこられた無数の方々の願いによるものです。私たちが「坂東本」をとおして教えを学ぶということは、その願いを聞き、受け継いでいくことでもあるのでしょうか。

— 宗祖親鸞聖人の教えに直にふれる機会に —

宗祖親鸞聖人の主著であり、浄土真宗の根本聖典である『教行信証』。特に「坂東本」と呼ばれる『教行信証』は、唯一の宗祖自筆本です。自筆だからこそ窺える宗祖の思索の変遷や筆致、そして後世(私たち)にかけられた願い。宗祖の息吹を感じながら、宗祖の著述に基づく学びを深めていただくことを願い、『坂東本 教行信証』カラー影印縮刷本を発行します。

『坂東本 教行信証』
カラー影印縮刷本予約受付
開始

み き あきまる
三木 彰円氏
(大谷大学教授)

予約注文受付期間 2025年 6月1日～9月15日



価格

99,000円

(税込・送料込)

期間中の注文に限り 79,200円 (税込・送料込)

予約注文にあたって

- ① お名前・住所・電話番号・注文部数を明記の上、右記「東本願寺出版」までハガキ・メール・Faxにてご注文ください。高額のため、お電話での注文は受け付けておりません。何卒ご了承ください。
- ② 2025年7月1日より「東本願寺出版HP」にて予約受付を開始いたします。
- ③ 発送時期は、2025年11月下旬を予定しております。
- ④ お知らせいただきました個人情報は、書籍の送付・請求以外に使用いたしません。



〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
メール: books@higashihonganji.or.jp
Fax: 075-371-9211